

青山学院大学卒業生教職員
校友「白亜の会」教員採用試験対策講座

「主体的・対話的で深い学び」を実現する 授業づくりとは・・・

跡見学園女子大学講師
早稲田大学河村茂雄研究室実践客員講師(2117)
上級教育カウンセラー・ガイダンスカウンセラー
谷戸 玲子

あなたが考える主体的・対話的で深い学びのある授業とは

- 1 具体的に、どのような授業でしょう**
- 2 児童生徒がどのような活動をする授業か**
- 3 主体的・対話的で深い学びにならない授業とは**

1 なぜ主体的・対話的で深い学びを目指すのか

★何のために、どのような授業をつくりたいのか

★受け身の姿勢をつける授業と能動的に向かう授業の違いを理解しよう

★今の自分の考えている授業は、児童生徒のどのような力を育てようとしているのか

これからの社会で生きていく力を軸にする

- ・自ら行動できる力 自分でやっていける力
- ・他者と協働できる力

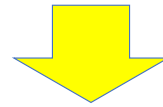
OECD (2019) によるエージェンシーの定義

変化を起こすために、自分で目標を設定し、
振り返り、責任をもって行動する能力
心理的な自覚にとどまらず、
実行して変化を実現するところまで含む



全体を見通す力（洞察力）
柔軟性（変換力・自己調整力）
振り返る力（フィードバック力）

これからの社会で生きていく力とは



Well-beingにつながる基礎的・汎用的能力

- ・どのように世界や社会と関わり、より良い人生を送るか
- ・多様性を理解し、自ら目的に向かう力
- ・能動的な問題解決力

- ・人間関係形成/社会形成能力
- ・自己理解・自己管理能力
- ・課題対応能力
- ・キャリアプランニング能力

全体を見通す力(洞察力)
柔軟性(変換力・自己調整力)
振り返る力(フィードバック力)

2 現実にはどのような課題があるのか

★実態を把握する・・・アセスメント

★授業でアプローチを工夫する・・・授業デザイン

★主体的・対話的で深い学びが生まれると、このような
場面でこのような児童生徒の様子が見えるであろう
・・・効果・成果・成長の様子

現代の困難さ → 目標・規律・関係づくり

- 荒れているようには見えないが、主体性が足りない。
- 無気力、無動機、不安で固まっている。
- 塾の方をリスペクトして、学校の授業を疎かにする。
- 信頼関係が結べない。特定の友達としか関われない。
- 同調性が広がり、固定と序列の雰囲気。

※河村茂雄氏「協働学習づくりの実際」講師のための拡大ネットワーク研修会講義(2022)

Well-beingが注目されている理由

組織の中で働く人々や市民のウェルビーイングを高めることで、生産性の向上や創造性の活性化、離職率の低下など、組織や社会にポジティブな波及効果をもたらすことが科学的に分かってきたから

子どもの今・・・認知能力と非認知能力

1 無気力

無動機

叱られたくない 嫌われたくない バカにされたくない （他律的）

楽しくない 自分の判断に自信を失くす （自己肯定感低い）

2 不安

不安だから行動しないパターン（安全行動としての回避・逃避行動）

不安だからやみくもに行動してしまうパターン（過剰適応状態）

3 過剰適応 表面に問題を出さない

特定の友達としか関わらない

同調性が強く、序列化を好む風潮に合わせる

辛いことを無いことにしたい→不登校

不登校と思われたくない→何もないようにする

子どもの行動や表情から見えていない奥の本質を見る 洞察＝人間洞察→アプローチの方法を考える

- 無気力に見える子 本当に無気力なのか？ 本当は楽しくしたいのか？
楽しい感情を呼び覚ます
- 不安な子 不安をとれるのか？ 安心した経験があるのか？
安心感を体験させる
- 過剰適応の子 自分の本音なのか？ 防衛機制を張っているのか？
自分の本音に気づかせる
- 無動機な子 本当に動機がないのか？ 心が固まっているのか？
心を揺り動かす やって良かった感情を味わわせる

主体的・対話的で深い学びとは

- 人が話している中身を、自分の言葉で置き換えられるように聞く。肯定的に傾聴する。
- 人格と人格が触れ合って、自分の考えを磨く。
- 人間として成長する。
- 読解力→理解力が磨かれる。
- 人間性が磨かれる。

全体を見通す力(洞察力)

柔軟性(変換力・自己調整力)

振り返る力(フィードバック力)

主体性を育てる＝自律性を高める指導 **つけたい力**

- 効力感を高める
- 思考を深める
- 自己主張能力を獲得させる
- 意欲や能動性を引き出す
- 人と協働できる力を付ける

自己理解力

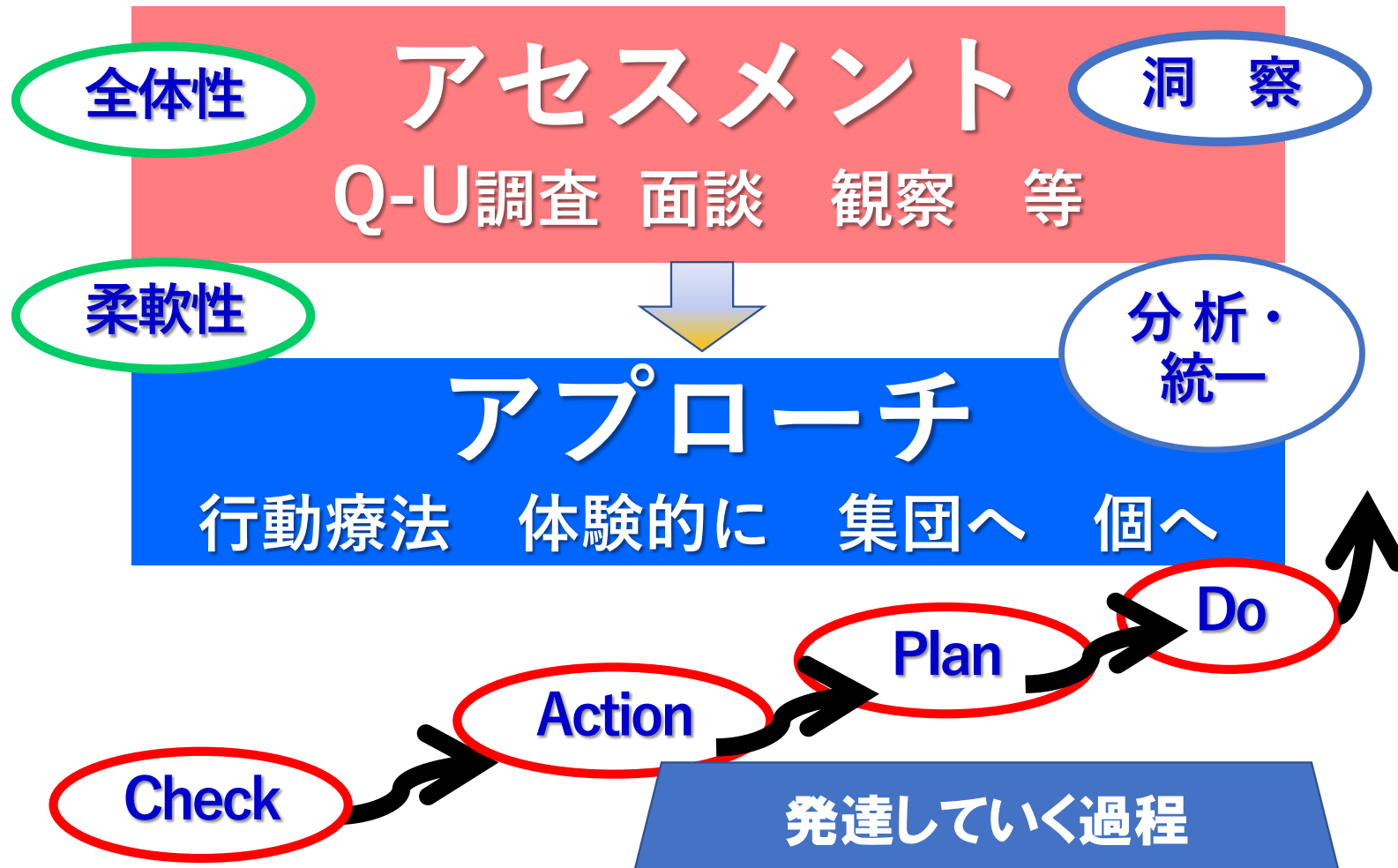
理解力

表現力・対話力

内発的動機

人間力

すべての教育活動において



ある学校の実践例

昨年度の研究成果を振り返り主題設定をした

教員の思い・願い・目指したい方向 意見一致

すべての児童が他人事としてではなく自分事として捉え、前向きに行動できるようになってほしい

引き続き研究主題の中心に据える「みんなが主役」

より親和的な学級集団を確立することが重要

教師による意図的な働きかけ

環境づくり＝主体的な行動が生まれる足場づくり



すべての児童が主体的になる

3 学級経営と授業づくりは一体となっている

★集団の雰囲気や心理的安全性を生み出す。

★学級経営を主体性重視にするだけでは主体性は育たない。毎日の授業で主体性が育つ。

**★人間関係づくりと規範意識を大切にした環境
対話を重視し、学び合う環境が深まりを生む。**

学級集団の発達と教師の関わり方の変化

荒れ ⇔ 混沌・緊張 ⇔ 小集団 ⇔ 中集団 ⇔ 全体・自治集団

リレーション

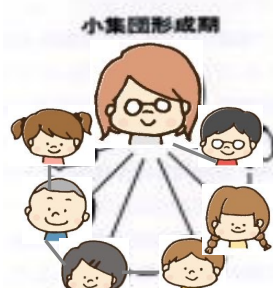
ルール

教師のリーダーシップ



教示的な
かかわり

1つ1つ手本を示して、やり方を理解させる



説得的な
かかわり

なぜルールが必要なのかを詳しく説明し納得させる



参加的な
かかわり

活動と一緒に参加しながら、リーダーをさりげなく支える



委任的な
かかわり

自分たちでできることは任せ、全体的・長期的視点で見守る

『学級集団づくりのゼロ段階』 河村茂雄著 2012 図書文化
※笠さわ子氏が加工したシートを許可を得て引用

理想の学級集団とは・・・心理的安全性重視

- 1 自由で温かな雰囲気でありながら、
集団としての規律があり、
規則正しい集団生活が送れている。
- 2 いじめがなく、
すべての子どもが、生活・活動を楽しみ、
親和的・支持的な人間関係が確立している。
- 3 すべての子どもが、意欲的・自主的に学習している。
- 4 子ども同士の間で、学び合いが生まれている。
- 5 学級内の生活や活動に、自治が確立している。

『日本の学級集団と学級経営』河村 茂雄著 図書文化(2010) より引用

居心地の良い学級集団が土台となり 資質・能力が育つ

柔軟な見方・考え方

素直に根拠をもって修正できる力

粘り強さ・集中力

人に関心をもつ力

言動に責任をもつ力

論理性 軸と要点の関係をつかむ力

協力・思いやり・連帯感

学習意欲を相互に高め合っている集団

主体的な子どもが育つ学級風土

この先生となら、1年間やっていけそうだな！

楽しそう

安心できそう

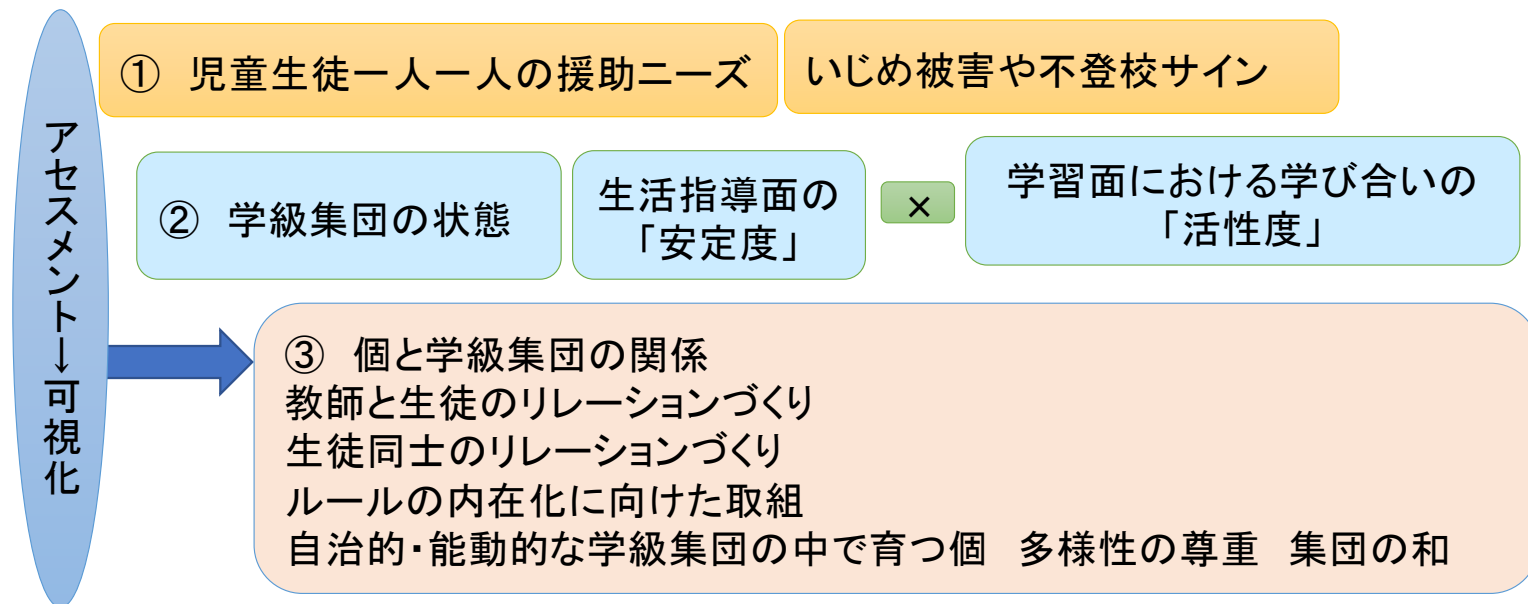
いい感じ

明日が楽しみ！！

毎日の授業が楽しみ！！

アセスメントの例：WEBQUを活用

集団の発達の様子→気になる子どもの早期発見



学級集団で個人を育てる

学級集団の雰囲気的大事

自分の学級の型を深掘りする

1 ルールの確立度

ポイント: 遂行 = 教師に言われたら行動できる

活用・創造 = 内在化したルールで行動できる

2 リレーション形成度

ポイント: 不安で形成された小グループか

誰とグループになっても良好な活動ができるか

3 安定度形成度

ポイント: 不安定化 → 流動化 → 固定化 → 安定化

4 活性度形成度

ポイント: 停滞 → 遂行 → 基礎的な行動を活用 → 創造的に
モデリングが必要 → 教師の指示に素直に遂行

チェックのポイント

1 承認感と非侵害感(ネット上も含む)

ポイント:学級内の関係性

嫌なことがあるか・孤立していないかを見る

2 学校生活意欲

ポイント:相談できる関係があるか 集団に居場所があるか

友人関係・学習意欲・学級の雰囲気

教師との関係・進路意識・部活動(相談できるか)

3 ソーシャルスキル

ポイント:配慮のスキル>関わりのスキル **表面と内面**

気を遣いすぎて疲れていないか

4 個人票も確認する 変化を見る

自己中心的な「安全行動」を軽減し、
「適応行動」をとっていかこうとする意識に！

第1段階：個人活動を徹底する

※かかわり合うことで不安が強くなるので、計画的に距離をとらせ、個人活動の体験を積み上げる。

※やる内容や仕事量の定まった系の作業等成果を急ぎすぎず、習慣的に取り組ませる。

第2段階：小グループで役割行動を主とした適応行動を取り入れる

※活動の手順・流れを明確にする。

※活動前後のあいさつ、話し方・聞き方のSSを教える。

※低いハードルで気楽なかかわり方の活動をやり切らせる。

違う考えを否定する自己中心的な行動には
教師が適切な介入を！

第1条件:メンバー構成を工夫する

- ※不安のグルーピングでないメンバー構成での小集団を構成
- ※「適応行動」となる活動（係活動等）に振り返りの場を！

第2条件:教師がポジティブフィードバックをする

- ※教師のポジティブフィードバックに意見を言わせる。
- ※与えられた課題に対して個別に取り上げて承認し、意味付けをして伝える。
- ※「適応行動」をしてもいいなという動機づけになるように具体的な「適応行動」の承認をする。

ルールの確立

リレーションの確立

**集団を対象にした
予防開発的なアプローチ**

構成的グループエンカウンター

構成的グループエンカウターの進め方

1 イントロダクション

レディネスとモチベーションをつくる
ウォーミングアップ

2 エクササイズ ※積極的参加と不参加の自由

自己開示に慣れるように段階を踏む

- ◇不登校気味の生徒等が参加しやすい内容から徐々に自己を見つめる内容へと、学級の実態に合わせて構成する
- ◇6つのねらい【自己（他者）理解・自己（他者）受容・自己表現・感受性の促進・信頼体験・役割遂行】から選ぶ
- ◇3つのボタン（**思考・感情・行動**）のいずれかに刺激を与える課題を設定する

3 シェアリング

ねらい：**認知の拡大、修正**

「エクササイズで感じたこと、気づいたことを
何でも言ってください」

- ① 自分について、感じたこと、気づいたことを言う。（聴く）
（自己開示）
- ② 他人について、感じたこと、気づいたことを言う。（聴く）
（フィードバック）
- ③ 全体を通して、学んだこと、疑問に思ったことを聴き合う。

人間関係づくりの基本を具体的に示すと・・・

こうすると、リレーションができる！というカウンセリング技法

- ・ワンネス **One-ness**・・・**一体感 共感**
心の居場所づくり 幅広い感情体験
- ・ウィネス **We-ness**・・・**団結 協力の意識**
相手の長所を認める 人のためにとという感覚
- ・アイネス **I-ness**・・・**自己開示 自己主張**
自分に気づく 自分の思考・行動・感情を知る

国語力は主体性を育む土台

「この文章は何が伝えたいのだろう」と問う指導で求めているのは



能動的な読みの姿勢 自分から

一読して「感動」「すごい」「いいなあ」と感じる＝先を見通す力
感動！直観！発見！挑戦！創造！＝非認知能力



言語で思考している 心も思考が司っている

例：国語科でどのような力が身に付くのか

ものの見方・考え方→情報処理能力→人間形成

文章を読む・聞く：言語 **言語活動** **理解**

文章を書く・話す：言語 **言語活動** **表現**

思考を働かせる：認知能力（知識）非認知能力（意欲）

主体的・自律的に学ぶ：洞察 意欲 動機づけ

★対話を通して、考え（思考）を深め高め合う

★思考は心も司る→心を豊かにする **言語活動**

教科の目標

言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成する。

(1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。

(2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

(3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚をい、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

各教科のオリエンテーション＝学習開き (学級開き 国語開き 体育開き 社会科開き等)

初任教諭に教えた『理科開き』

教科書の表紙を見せる	気付いたり感じたことを言わせる
教科書の目次を見せる	興味・関心を言わせる
教科書の中身を見せる	全部ページをめくり、興味・関心を言わせる

画用紙に、自分が興味がある内容、学びたいことを書かせる（絵も有り）
→理科に興味・関心が出ると同時に、学ぶ構えができる

『国語教室開き』	※ 輿水かおり先生の講義より
表紙を見てごらん	「銀河」なぜだろう？ 絵 どう思う？ イメージを語り合う
目次を見せる	気付いたことを語らせる へえ、なるほど と関心をもたせる
付録を読ませる	いろいろな手引きになっている 印 や 記号にも気づかせる

1年間どのような学習をするのか 全体観をもたせる 使い尽くす覚悟
編集意図も理解する（教師） 大いに活用する
税金で無償化になっている教科書は主たる教材→教科書で教える

問いを自らつくるための投げかけ例 社会科編

投げかけA: 給食が自分の栄養になるまでに どのような人が関わって口に入るのか？

Aさん

- ・調理人
- ・お箸を作った人
- ・お皿を作った人
- ・木を育てている人
- ・加工している人
- ・包丁を作るための鉄を作っている人
- ・スプーンやフォークを作るための鉄を作っている人
- ・農業
- ・漁業
- ・畜産業

Bさん

- ・日本を戦後から復興させた人
- ・トラックを作った人
- ・トラックを作った人に給料を払う人
- ・ガソリンを掘った人

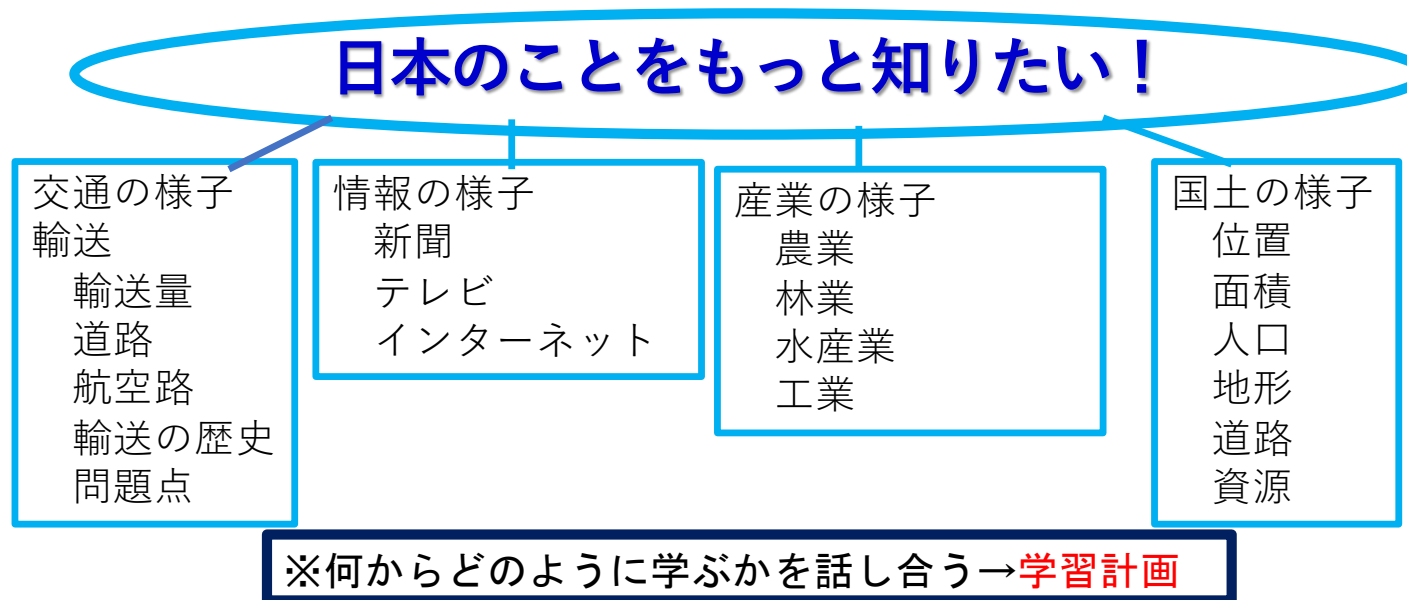
Cさん

・ <u>食べ物</u> 農家（野菜） 漁業（魚） 畜産業（肉・卵） 加工業	・ <u>工業</u> 輸送する人 車を作る人 機械を作る人 ゴミを処理する人	・ <u>その他</u> 調理人 お箸 お皿 包丁 資源 エネルギー	・ <u>環境汚染</u> 海 ゴミ 農薬	・ <u>安全性</u> 科学者 ・ <u>IT関係</u>
--	---	--	--------------------------------	--------------------------------------

子どもたちと対話をし、学習内容を構造化する

軸 (指導者の願い ねらい 思い 社会科の学びの本質 シティズンシップ教育)
日本人として相手を尊重し合い、助け合いながら、平和を求め、豊かな生活を求めている人の生き方に関心をもって欲しい。

**投げかけB: 日本を知ることには、どのようなことを学ぶと分かったことになるか？
学ぶべきこと、学びたいことを出し合ってみよう。**



探究的な学びの土台

1 安心できる環境での主体的な対話と表現

心理的安全性の確保 多様な表現方法を学ばせること

2 楽しい・またやりたいとなる学び

一人一人の個性や好奇心の尊重 柔軟性 主体性

3 探究プロセスの可視化と共有

見通しをもつ力を付ける（洞察力）

児童自ら問いをつくるプロセスを重視すること（分析・統一力）

体験的な学び、主体的な活動を習慣化させること（行動力）

振り返りは形式的にしない 感情を表現させること（フィードバック力）

参考文献

- 「子どもたちの行動を決める学級の「空気」」河村茂雄 2025 図書文化
- 「ピアフィードバックのゼロ段階」河村茂雄 2025 図書文化
- 「開かれた協働と学びが加速する教室」河村茂雄編著 2022 図書文化
- 「子どもの非認知能力を育成する教師のためのソーシャル・スキル」河村茂雄著 2022 誠信書房
- 「アクティブラーニングのゼロ段階」河村茂雄 2017 図書文化
- 「学級リーダー育成のゼロ段階」河村茂雄 2014 図書文化
- 「学級集団づくりのゼロ段階」河村茂雄 2012 図書文化
- 「日本の学級集団と学級経営」河村茂雄著 2010 図書文化
- 「学級ソーシャルスキル小学校」河村茂雄他編著 2007 図書文化
- 「学級ソーシャルスキル中学校」河村茂雄他編著 2007 図書文化
- 「構成的グループエンカウンター事典」國分康孝・國分久子 2004 図書文化
- 「OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来」白井 俊 2020 ミネルヴァ書房